

2020 年度

# みんなのとっぽこども園 施設自己評価

## I 施設自己評価の趣旨

菊清会の理念は、「子どもの最善の利益を追求すること」「子どもの可能性を最大限保障すること」つまり、子ども中心とした教育・保育です。この理念に基づいた教育・保育が現場で実現するためには、保育者ひとり一人が実現に向けての努力が大切なことは周知のとおりですが、同時に、園の体制は、教育・保育を充実することが容易な環境になっているか。保育者をサポートする制度があり、機能しているかどうかも大切です。

保育の質を問われるようになって久しくなりますが、私たちの園では、質に目を向けることができるようになってきました。それは、法人の理念があり、教育・保育の目標を定め、その理念と教育・保育の目標を基に各保育園・こども園の園長をはじめ保育者が、自らの園の教育・保育の方針と目標を作り上げることができるようになっていくことが大きな要因になっています。

ところが、園の目標に向かって保育をしているはずなのに、いつの間にか理念や目標を見失った保育をしてしまうことが起こってしまう。ここに保育の質が問われる原因があるのだと考えます。

保育の質が「子ども中心の保育」にあると学びましたが、大人の都合で教育・保育をすることが増えてきた時に質の低下が始まります。

私たちは、一般的に「評価する」という言葉をどうしても敬遠してしまいます。それは、出来ていないことや失敗、欠点といった負の部分の指摘するものととらえているからです。負を評価するならば未実施、未到達、失敗、欠点といった教育・保育の実践と運営のマイナスを挙げることになります。自らが保育の質を評価するということは「子ども中心の保育」になっているかどうかを測ること。理念に基づいた方針や目標に近づこうとする保育ができているかどうかを測ることになります。つまり、未実施、未到達や失敗、欠点といったことが明らかになることはこれからの改善すべき点が見えてくることになります。

私たちは、この施設自己評価を、定期的に行い結果を保育者全員で共有すること。結果を踏まえた改善を皆で行うことで教育・保育の質を向上させるようにしていく必要があります。その上で、保護者や地域の方々に公開し、園における教育・保育の内容や取り組みに理解を得ていくことが大事になっていきます。

## 【菊清会の理念】

家庭と同じように生活することができるこども園を通じて平和な世の中を創造するために、子どもたちが人との繋がりを大切にしながら、毎日明るく楽しみながら生きていく自立した力をそれぞれで身につけていけるようにする。

## 【教育・保育方針】

日々の活動に当たっては、子ども一人ひとりを大切にするために「子どもが人的、物的環境に主体的に関わり、環境に内在する遊びを子ども自ら（主体的）見つけ出して工夫して、伝承する保育」を基本とします。

こうした子ども主体の教育・保育を援助し支え実現するためには「子どもが、子どもらしく、大人が、大人らしく創意工夫が日々の保育に醸し出されることで子どもたちの心と身体に「生きる力」「創造する力」を蓄えたいと願っています。それらの力を働かせるためには、一人ひとりが自分を発揮できなければなりません。自分を発揮するためには、人と人との関係も上手に作り上げなければなりません。

「私は私、でも、私はみんなの中の私。」自己を十分に発揮しながら他との協調することができる、そうした調整能力を持った自我を育てることも、こども園の大切な使命と考えます。

## 【保育ルール】

子どもの気持ちをまず尊重する。

## 【目指す子ども像】

- ・自分の可能性を信じていることができる子ども。
- ・正直な子ども。
- ・何事にも興味が持てる子ども。
- ・自ら約束を守ることができる子ども。

## みんなのとつぽこども園の方針と目標

### 《私は私。でも、私は私たちの中の私。》

みんなのとつぽこども園が目指す子どもの姿は、

法人の教育・保育方針である「私は私。でも私は、みんなの中の私」です。

子ども社会の中で、自己を発揮し、「みんな違って、みんないい」と、自分とは違う考えや思いの人を受け入れ、主体的かつ協調しあいながら生きていける子どもの姿を思い、

そのために、多様に変化していく社会に出た時に自分の考えをしっかりと持ちつつ、様々な人の考えを理解し、柔軟に対応できる生きていく力の基礎を育んでいく。

今後も、ひとりひとりを大切に、やりたいことを保障するとともに、集団生活の中で人との関りを大事にする保育をしていきながら、子どもが自分らしく自己を発揮し楽しく好きなことが十分できるような環境作りを行う。

職員は子ども達の笑顔を大切に、子どもとの応答的な関係を構築し、信頼関係を深めていく。

## II 施設自己評価と教育・保育の関わり

私たちは、こども園教育・保育要領に基づき、法人の理念と園独自の教育・保育方針をもとに教育・保育目標を設定して創意工夫しながら日々の保育を実践しています。

施設自己評価では、保育者が特に大事にしてもらいたい保育への想いや具体的な項目を提示し、自らの評価をするものだけではなく、園に関わるすべての人たちが保育の大切さと保育の質の向上に取り組む姿勢を理解していけることを目指します。

### 【施設自己評価について】

日々の保育活動を振り返り保育者全体で自己評価することは、専門性と教育・保育の質の改善と向上のために欠かせないことです。保育所保育指針、教育・保育要領には

ア 保育教諭等保育者は、教育・保育の計画や記録を通して、自らの保育実践を振り返り、自己評価することを通して、その専門性の向上や保育実践の改善に努めなければならない。

イ 保育教諭等による自己評価にあたっては、次の事項に留意しなければならない。

- (1) 子ども活動内容やその結果だけではなく、子どもの心の育ちや意欲、取り組む過程などにも十分配慮すること。
- (2) 保育実践の振り返りや保育者相互の話し合いなどを通じて専門性の向上及び保育の質の向上のための課題を明確にすると共に、こども園全体の保育の内容に関する認識を深めること。

と書かれています。改善のための評価には、評価の視点として「子どもの育ちをとらえる」「園の教育・保育をとらえる視点」の二つが含まれています。このような観点を良く理解した上で各自施設の自己評価をしてください。

### 【記入・評価の方法】

- (1) 9月の時点、2月の時点にチームで保育を振り返り、できている場合は、□に✓をつけ、できていない場合は未記入にします。具体的な改善点を記入し今後の保育に生かしてください。
- (2) それぞれの内容が理解できない場合は、「保育指針」「こども園教育・保育要領」「望まれる保育者像」「見守る保育」（藤森平司氏著）などを読み込んで理解してください。
- (3) 園長に提出してください。
- (4) 園長確認後、返還します。
- (5) 園長が提出された自己評価を基に、園全体の施設自己評価を提示します。
- (6) 全職員で施設自己評価を基に改善すべき事項を検討します。
- (7) 全ての設問の先頭には、「園は」「私たちは」という言葉が入ると考え評価してください。

## 1 子どもの権利について

子どもの権利を守ることは、大人の責任です。近年、多文化社会、地域の崩壊、家族形態の多様化、子ども自身の特性などの状況を踏まえ、より一層、一人ひとりの子どもに寄り添う保育を展開することが必要になっています。

子どもの成長を的確にとらえ、子どもの心情に十分配慮しながら、子どもにふさわしい生活時間や生活リズムがつけられるよう援助すること。

子ども自身が多くの人から大切な存在として受け止められていると感じ、自己を十分発揮しながら、自信をもって安心して生活できる環境を提供することが大切です。私たち保育者は、保育の質の向上に取り組む上で、子どもの権利を守ることを一番大切にし、保育内容すべてに関連することと考えます。

子どもの権利について保育者全体で確認し、十分配慮している。		
9月	<input type="checkbox"/>	研修を重ねている。その都度対応を考えている。
2月	<input checked="" type="checkbox"/>	子どもの権利を意識し、保育・対応をしている。
保育者は、法人の理念・保育指針を十分に理解し、日々の保育実践に活かして、向上心を持って取り組んでいる。		
9月	<input checked="" type="checkbox"/>	研修等で具体的な話をしている。
2月	<input type="checkbox"/>	研修を重ね、向上心を持ち取り組んでいく。
「望まれる保育者像」を保育者の目標として念頭に置き、保育者としてのあるべき姿に近づこうとしている。		
9月	<input checked="" type="checkbox"/>	個々に近づこうとしている姿は見られる。
2月	<input type="checkbox"/>	〃
保育者は、園の保育目標と方針を理解し、日々の保育実践をしている。		
9月	<input checked="" type="checkbox"/>	研修を重ねる中、できてきている。
2月	<input type="checkbox"/>	〃
子どもや保護者の気持ちを傷つけるような保育者の言動・保育放棄・虐待・無視・差別等を禁止する職員行動規範を遵守している。		
9月	<input checked="" type="checkbox"/>	全体で意識し、できている。
2月	<input type="checkbox"/>	〃
大人の都合による禁止や制止、子どもの言葉や身振りなどを無視する、呼び捨てやあだ名で呼ぶ、不必要な大きな声、否定的な対応などしていない。		
9月	<input checked="" type="checkbox"/>	園全体の子どもの人権を守る意識が持てるようになり、できてきた。
2月	<input type="checkbox"/>	〃
「子どもが何を求めているか」知ろうとしている態度で保育を行っている。		
9月	<input checked="" type="checkbox"/>	子ども主体の保育、やりたいことを保障することなど、大事にしている。
2月	<input type="checkbox"/>	〃
保育者は、一人ひとりの子どもの行動や欲求に、わかりやすい言葉で穏やかに個々の子どもに語りかけ、応答的に関わっている。		
9月	<input checked="" type="checkbox"/>	年齢に応じた言葉かけを意識し、できている。
2月	<input type="checkbox"/>	〃

おむつ交換やトイレ、着替え、プール遊びなどの際は、全裸で放置されることのないよう配慮し、他者の視線を遮る工夫をしている。

9月	<input checked="" type="checkbox"/>	年度初めに改めてマニュアル確認し、徹底している。
----	-------------------------------------	--------------------------

2月	<input type="checkbox"/>	〃
----	--------------------------	---

入園を希望する保護者に対して公平かつ平等に対応している。

9月	<input checked="" type="checkbox"/>	職員ひとりひとりが意識してできている。
----	-------------------------------------	---------------------

2月	<input type="checkbox"/>	〃
----	--------------------------	---

## 2 求められる保育の資質

園に問われる保育の質とは、子どもを大切に思い、子どもと心が通い合うよう保育をすること。子どもが人と関わりあう心地良さを味わい、安心して気持ちよく過ごし自ら主体的に活動することができる環境があること。それは、保育者が、子どもの身体の発達と心の育ちを大切にし、子どもの気持ちに応え、手を携え、言葉をかけ、共感しながら、一人ひとりの存在を認めていくことです。そのような保育者の関わりにより、子どもが人・物・自然などに触れ、興味・関心を広げ、様々な心情・意欲・態度を身につけ、生きる力の基礎を培っていくことができるようになる保育のことだと考えています。

また、子どものために保護者支援や地域の子育て家庭に対する支援を行うことも重要な観点です。子どもへの愛情や成長を喜ぶ気持ちを共感しあうことで保護者自身が、子育てに自信を持ち、子育てを楽しみと感ずることができるように支援する。日常の保育の中で、子どもとの関わり方や子どもの成長・発達について専門職として具体的な助言をすることや行動見本を見せること、地域への発信することもまた在園児の保護者や地域の子育て家庭の支援につながる観点となります。そのために、子どもや保護者のモデルとなる人権感覚や倫理観をもって保育にあたり、常に改善に前向きに取り組みながら保育技術や知識を高める意欲がなくてはなりません。

保育の質の確保・向上を実現するためには、園全体で教育・保育を実践・振り返り・計画そして実践するといったサイクルができていくこと。保育者が自身の職種に合わせた技術や新しい知見を獲得するための機会を園が保障していること。保育者の働き方やライフプランを尊重する運営をすること。その上で、保育者一人ひとりが思いやりの心、気遣いの心、人の対する愛情を持った人間性と専門性の向上に取り組むことが大事になります。

子どもや保護者から信頼され尊敬される職員であって欲しいと考えています。

養護と教育・保育を定期的に振り返り、保育の質を向上しようと意欲がある。		
9月	<input checked="" type="checkbox"/>	目標シートを作成し個人の課題について年2回の振り返りをする。また随時話をしている。
2月	<input type="checkbox"/>	〃
「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を基に子どもの発達をとらえる工夫をしている。		
9月	<input type="checkbox"/>	研修や個々の学びができるようにしていく。(研修・本を読む等)
2月	<input checked="" type="checkbox"/>	全員で学べる機会を設け、具体的な話をする中、個々の気づきを大事にしている。
子どもの発達過程を理解し、集団で子どもを把握せず一人ひとりの成長・発達に合わせた見通しを持った援助ができる。		
9月	<input checked="" type="checkbox"/>	一人ひとりの発達を、発達表を使って確認し、言葉がけなど意識をもって行っている。
2月	<input type="checkbox"/>	〃
子どもと関わることを喜び、子どもと一緒に楽しみながら「見守る保育」を実践している。		
9月	<input checked="" type="checkbox"/>	子どものやりたいことを保障し、楽しく保育ができている。
2月	<input type="checkbox"/>	〃
差別することなく、保護者の気持ちに寄り添い、保護者と共に子どもの成長を喜び、子どもの発達を支援している。		
9月	<input checked="" type="checkbox"/>	保護者会・個人面談以外にも相談を常に受け付ける体制ができている。
2月	<input type="checkbox"/>	〃
保護者に、日々の子どもの様子や園の出来事を分かりやすい方法で発信している。		
9月	<input checked="" type="checkbox"/>	Hp・スマホでその日の様子を知ることができる。個々の様子は連絡ノートや口頭にて伝えている。
2月	<input type="checkbox"/>	〃
こども園の保育者として正しい倫理観と豊かな人間性、そして、社会人への責任感を持ち保育に従事している。		
9月	<input checked="" type="checkbox"/>	今の社会事情に目を向けて過ごすこと。コロナ禍で大変さはあるが、今大事にすることをやる。
2月	<input type="checkbox"/>	保育者として責任感を持ち行動している。
保育者間のコミュニケーションを円滑にし、共通理解と協働性・同僚性を高めチームとして行動している。		
9月	<input checked="" type="checkbox"/>	同僚性について研修を継続する中、成果は見られている。
2月	<input type="checkbox"/>	チームとして学びの継続を大事にしている。
職員会議、研修、他園との交流等を通して、保育者一人ひとりの保育の課題や不足している専門知識・技術について「気づき」の機会を多く持とうとしている。		
9月	<input checked="" type="checkbox"/>	研修の中、学び合えるように考えている。個々で学ぶ機会を設ける(自宅ワーク)
2月	<input type="checkbox"/>	キャリアアップ研修など、「気づき」の機会が多くあり、学びに繋がる。
保育者一人ひとりの専門性の向上やライフプランに合わせた研修計画が立てられている。		
9月	<input checked="" type="checkbox"/>	園長が個々の学びの機会を考え、研修計画を作り、参加できるようにした。
2月	<input type="checkbox"/>	全員が各研修に参加し、学びをレポートや発表で伝える。



### 3 保育環境

こども園は、子どもが快適に心地よく生活できる環境を整えることが大切です。

少人数や一人でじっくり遊びこむことができる環境、協同した活動ができる環境、ホッと一息つくようなくつろげる環境、友だちと一緒に思いきり身体を動かすことができるなど、子どもが長時間生活する場として動と静の両方の環境を保障し、人と人との係わりを育むことができる保育環境を構成します。

更に、子ども自ら興味を持ち、関わってみたいと思うような玩具や遊具が十分準備されている、身近な動植物や自然事象に接する機会があるなど、興味・関心を持ち子どもが思わず関わりたくなるような保育環境も重要です。

私たちは、園の中においては子どもの命が守られることを第一に、乳幼児期の子どもの発達をとらえ、子どもが遊んでみたくなるような環境を構成し、子どもが十分に楽しみ、満足感や充実感を得られると共に、「発見から発展へ」という子どもの問いと探究といった教育的アプローチを含んだ環境を構成していきます。

子どもの成長や遊びに合わせた玩具・遊具・絵本・図鑑が、子どもの手の届く場所に適切な量で用意され、子どもが主体的に選び、自発的な遊びを展開できるように配慮されている。		
9月	<input checked="" type="checkbox"/>	子どもの遊びの様子をみながら、適切なものを考え用意している。
2月	<input type="checkbox"/>	継続的に子どもの遊びの様子や発達を見ながら、用意をしている。
リズム・音楽・絵画・造形等の多様な表現活動を経験でき、自ら興味を持って関わり楽しめる工夫や継続して活動できるような環境設定がされている。		
9月	<input checked="" type="checkbox"/>	コーナーを用意する。いつでも使える場所に置いている。
2月	<input type="checkbox"/>	〃
子どもたちが遊びこむことができる時間と空間の配慮、自由な遊びや交流のゾーン（コーナー）等、子どもの主体性、自発性を尊重するとともに、子ども同士が関わり遊びが豊かに展開されるように工夫されている。		
9月	<input checked="" type="checkbox"/>	子どもの遊びの様子を見ながらゾーンを変えるなど工夫
2月	<input type="checkbox"/>	〃
友だちと好きなことをして落ち着いて遊べる場所や一人でじっくりと楽しむことができる場所、体や心をゆっくりと休すめることやくつろげることができる空間がある。		
9月	<input checked="" type="checkbox"/>	場所や一人の時間の保障もできている。
2月	<input type="checkbox"/>	〃
菜園やプランターの植物等、生活の中で緑を楽しむことができる工夫や動物等を飼育し身近な自然と関わることができる取り組みがされている		
9月	<input checked="" type="checkbox"/>	限られた園庭なので、散歩先での経験を豊かにしながら経験ができるようしている。
2月	<input type="checkbox"/>	
机や椅子などは、子どもの体に合った大きさを調えられている。		
9月	<input checked="" type="checkbox"/>	随時買い足し、準備する。
2月	<input type="checkbox"/>	

食事・休息（睡眠）が子ども一人ひとりの生活リズムに合わせてとることができる環境を工夫している。		
9月	<input checked="" type="checkbox"/>	環境を整え、行っている。
2月	<input type="checkbox"/>	〃
子どもの活動を遮断することなく、継続できるように工夫している。		
9月	<input checked="" type="checkbox"/>	できる限り継続できる時間の保障と遊びが継続できるよう保管している。
2月	<input type="checkbox"/>	〃
外気に触れ、自然を感じ、興味を持って自ら移動、探索する楽しさを存分に味わい、体を動かす技能を発達させるための運動ができ、かつ、子どもが安心して遊べる安全面に配慮された園庭や運動スペースが確保されている。		
9月	<input checked="" type="checkbox"/>	園庭に限らず、バスを使い散歩先の工夫をしていく。園庭で遊べるものを考え用意している
2月	<input type="checkbox"/>	バスを有効活用。また近隣の公園など目的に応じ利用している。子どもがやりたいことを保障する。
乳児の保育環境について、月齢や発達に配慮した乳児専用の空間が設けられているなど、乳児が安心して落ち着いた生活を送るための特別な配慮がなされている。		
9月	<input checked="" type="checkbox"/>	保育室のレイアウトを工夫している
2月	<input type="checkbox"/>	〃

#### 4 教育・保育内容

【知識及び技能の基礎】【思考、判断力、表現力の基礎】【学びに向かう力、人間性】という「ねらい」に基づいた「就学までに育ててほしい10の姿」を捉えて、個々の子どもの発達や学びに必要な乳幼児期の経験が得られるような状況、必要な援助が全体的な保育の計画に示され、日々の保育で実践されていることが必要です。

こども園における教育・保育の特性は「養護と教育の一体的な実施」であり、子どもと生活を共にし、子どものすべてを受け入れ、その心身の状態に応じたきめ細やかな援助や関わりを基礎として、生きる力の基礎となる心情・意欲・態度を身に付けていけるように教育・保育を展開します。

このような教育・保育の内容を、子どもの発達過程や発達の連続性を見据え、園の保育理念や教育・保育目標のもと、長期・短期の保育計画を立て、計画に基づく保育を展開し、日々保育を振り返り評価し、明日の保育に反映させることで、保育の内容は子どもの成長を援助するものとなります。

園は、独自に目標を立て、創意工夫し様々な特色を持った保育を展開していきますが、基本は「子どもの最善の利益を求め、子どもを中心とした」保育を展開することです。「できる」「できない」という表面的な捉え方をするのではなく、子どもの実態を把握し、子どもと子ども、子どもと保育者、子どもと保育者と保護者や地域の人という三者の関わりの中で保育が展開されるように配慮することが重要です。保育者の適切な援助によって、適切な環境の中で人と関わりながら、子どもが自らやってみようとする意欲や興味関心、好奇心、探求心などの心情、考える力や認識力が培われ、その結果として、子どもが自己肯定

感を豊かにもてるようになるのです。

一人ひとりの子どもの豊かな学びの場として、また、生活が豊かになるように環境や行事を構成している。		
9月	<input checked="" type="checkbox"/>	子どもの興味関心を引き出す遊びや物を用意。
2月	<input type="checkbox"/>	
発達過程を通して、連続する子どもの育ちの道筋、子どもの姿を共有している。		
9月	<input checked="" type="checkbox"/>	研修や日々の振り返りの中、子どもの姿を共有している。
2月	<input type="checkbox"/>	〃
子どもの発達や地域の特性を捉えて指導計画を立て、保育者全体で計画に基づいた保育を協働し実践していて、定期的な評価・振り返りを行い、次の計画に反映させている。		
9月	<input checked="" type="checkbox"/>	日々はもちろん週・月・期ごとに振り返り、次の計画に反映している。
2月	<input type="checkbox"/>	〃
0・1・2歳の個人別指導計画は、個々の子どもの家庭環境を踏まえた成長記録・心身の発達、活動の実態に即して作成されている。		
9月	<input checked="" type="checkbox"/>	すべて作成されている。
2月	<input type="checkbox"/>	〃
一人ひとりの子どもの発達状況、目標、保育の実態について話し合う機会を定期的かつ必要に応じて開いている。		
9月	<input checked="" type="checkbox"/>	学年・全体での確認等定期的に行い、状況により随時行う。
2月	<input type="checkbox"/>	〃
配慮を要する子どもの支援について、全体で認識し、必要に応じて個別指導計画を立てて保育を実践し、家庭や専門機関と連携し適切に対応している。		
9月	<input checked="" type="checkbox"/>	変化は随時伝え合う。関係機関と連携し、研修等積極的に参加している。
2月	<input type="checkbox"/>	〃
入園時に利用者の個人情報（入園前の子育て、発育状況等）や要望を把握し、定められた書式に記録している。		
9月	<input checked="" type="checkbox"/>	行い、マニュアルどおり保管している。
2月	<input type="checkbox"/>	〃
保育者自身の自己評価など、日ごろの保育を定期的に振り返る機会を設けている。		
9月	<input checked="" type="checkbox"/>	クラスごとに行う他、個別には目標シートを基に園長と面談をしている。
2月	<input type="checkbox"/>	〃
保育者は、自らが伸びようとする子どもの力を妨げることなく、かつ、子どもの様々な可能性を考慮し環境を構成している。		
9月	<input checked="" type="checkbox"/>	学びや遊びが継続的に保障できるよう配慮した環境などができている。
2月	<input type="checkbox"/>	〃

## (1) 生活と遊びの中の教育

乳幼児期の子どもたちは、遊びを通して言葉を獲得し、数や量を知り、動植物や様々な現象に触れて科学・命の大切さを学び、自分の思いを表現するなど様々な力を身に付けていきます。

この時期は、保育者の温かい言葉かけやスキンシップ、子どもの成長発達に応じた様々な玩具や絵本と出会うことにより、人と関わる心地よさ、遊ぶことの楽しさを経験し興味関心を養っていきます。その後、子ども同士の関わり合いや協同する遊び、生活の中にある不思議を体験し、さらに心情・意欲・関心を培い、学びや生きる力の基礎を体得していきます。

例えば、積み木遊びでは、積み木で同じ高さのものを作ことや、自分のイメージするものを作るために、積み木の大きさや形を見て、考え、積み木を選び、身長に重ね、等数や形の概念を学び、集中力を養います。また、友だちと一緒に理想の街を想像し毎日継続して積み木を重ねていくことで、友だちと協力することの大切さや、友だちを思いやる心、継続して取り組む忍耐力、完成させた達成感や充実感を学びます。時には積み木が様々な理由でこわれてしまい、挫折感や軋轢・葛藤を味わい、その後に再度チャレンジしようとする意欲を生みます。

園の行事は、乳幼児期を通した生活のアクセントであり喜びでもあるでしょう。そして、保護者に、子どもの成長を実感していただくこと。園の生活や遊びが子どもの成長にどのように関わり援助しているのか知っていただく機会でもある。また、国内外の文化を伝承する行事は、社会や地域を学ぶ機会であるとともに目に見えにくい自然科学と接触する貴重な機会でもあると考えます。子どもの参画を視点に入れた行事が展開され楽しい生活を送れるように計画していきます。

このように園の中で、子どもたちは、生活と遊びを通して、様々な経験・体験を重ね、現在を心地よく生き生きと幸せであり、未来に向かって生きる力の基礎を培います。

子どもの好奇心、探求心、思考力などが育つよう、子どもが自ら興味を持って遊ぶことができる保育を行っている		
9月	<input type="checkbox"/>	環境を考えつつ、職員も学びながらおこなっている。
2月	<input type="checkbox"/>	継続
子ども一人ひとりの置かれている状況を把握し、ありのままの姿を理解と見通しを持って受け入れ、子どもが安定感と信頼感を持って園での生活を送り、自分らしさを発揮し、行動できるよう援助している。		
9月	<input checked="" type="checkbox"/>	職員間で連携を取り合い見守れるようにしている。
2月	<input type="checkbox"/>	〃
保護者とともに行う行事、子どもだけで行う行事、誕生会等、子どもが季節感（自然）や文化などを通して社会や地域を体験から学びながら、園での生活を楽しめる工夫をしている。		
9月	<input checked="" type="checkbox"/>	子どもが行事を自分たちで考えられるような工夫をしている。

2月	<input type="checkbox"/>	〃
積極的に散歩や園外保育を実施し周囲の自然環境に親しみ、商店街や他の施設等を含む地域との交流を図るなど、自然を慈しみ、社会と関わることができる取り組みがされている。		
9月	<input checked="" type="checkbox"/>	散歩マップの活用。地域との交流を含め、様々な経験ができるようにしている。
2月	<input type="checkbox"/>	〃
文化施設などの周辺施設・町会・地元商店街等と連携する等、子どもが地域社会の中で活動範囲を広げるための取り組みを行っている。		
9月	<input type="checkbox"/>	コロナ禍でできてない
2月	<input checked="" type="checkbox"/>	感染に気をつけながら、可能な交流を行っている。
乳児保育を行うにあたって、一人ひとりの情緒を育てることに重きを置き快適な環境と保育者の微笑みやゆったりとした話しかけ等が行われている。		
9月	<input checked="" type="checkbox"/>	一人ひとりの生活ペースを守ることで安定した生活ができるように工夫している
2月	<input type="checkbox"/>	〃
幼児保育は、友だちの存在を認め、一緒に遊ぶことを楽しむことができるよう、協同する活動を取り入れている。		
9月	<input checked="" type="checkbox"/>	保育室に交流スペースを作りいろいろな遊びが発展する工夫をしている。
2月	<input type="checkbox"/>	〃
子どもが自らの気持ち（心情）を表現することができるよう機会を日々の中で設けている。		
9月	<input checked="" type="checkbox"/>	子どもの様子を見ながらその都度、発表や感想など意見が言える時間を作っている。
2月	<input type="checkbox"/>	行事なども子どもの意見を取り入れながら考えている。
子ども同士の軋轢を保育者が解決するのではなく、子どもの解決する力を信じて適切な距離を保ち見守っている。		
9月	<input checked="" type="checkbox"/>	怪我等に繋がることのないよう子どもたちの様子を見守ることを心がけている。
2月	<input type="checkbox"/>	〃
子どもが達成感をもって基本的な生活習慣を身に付けられるよう、子どもにわかりやすい方法で伝え、適切に援助している。		
9月	<input checked="" type="checkbox"/>	目で見える表示をし、できることは自分で行えるように伝え、できた時にはともに喜んでいる
2月	<input type="checkbox"/>	〃
保育の手段が目的となるような活動になっていない。また、活動の選択肢の内容が、選択することが目的とならないように子ども主体に配慮されている。		
9月	<input checked="" type="checkbox"/>	子どもの様子から次の活動を予測し環境を構成する。
2月	<input type="checkbox"/>	〃

## (2) 食育

食育の基本は、栽培する、収穫する、調理する、楽しく食べると考えています。連綿と受け継がれてきたこの食の一連のつながりを園の生活で体験することです。野菜等を子どもと一緒に育て、毎日の水やりや成長の観察、収穫や自ら収穫した野菜を調理し食べる喜び、時には栽培に失敗し枯れてしまうこと。無農薬のために虫がついて食べられなくなることなどの体験を通して、食べ物や命への感謝の気持ちを育てるとともに様々な発見を通して自然科学を学ぶ機会ともなっています。

それだけではなく、園では、食育計画を作成し食育を推進し、生きるために必要な食事や人との関わり、食習慣やマナー、適切な食生活と食習慣の定着、食を通し食べ物大切さや栽培してくれた人への感謝の気持ちなど、食を通して様々なことを学んでいきます。

園の給食は「大量調理施設衛生管理マニュアル」（厚生労働省）に基づき、適切な衛生管理、有害なもの又はその疑いがあるもの、過度に加工したものなどは避け、鮮度の良い衛生的な食材を選定し、旬のものを取り入れながら栄養価を考えて献立を作成しています。

子どもの味覚や乳幼児期の成長発達に合わせて、「楽しい・美味しい」を基本に栄養価を考え、形状・硬さ・味付けなどを工夫し基本的には手作りで、素材の味を味わえるよう出汁の旨みを生かし薄味で提供しています。

食物アレルギーへの個別対応もきめ細やかに行い、子どもの安全を第一に考えた食事を提供しています。

食育の目標を設定し食育計画が作成され、計画に基づき栄養士・調理員と保育教諭等が定期的に情報交換し、連携を図って食に関する専門性を生かした取り組みを行っている。

9月	<input checked="" type="checkbox"/>	給食会議を全職種で毎月行う他、週案会議でも話をしている。その中で改善や保育活動に繋がっている
2月	<input type="checkbox"/>	〃

衛生管理マニュアルや給食に関するマニュアルを作成し、衛生点検表による毎日の点検、調理や配膳に適した専用のエプロン・三角巾・履物の着用などを使用するなど、衛生管理がされている。

9月	<input checked="" type="checkbox"/>	月・日の点検を行い記録報告している。
2月	<input type="checkbox"/>	〃

食事摂取基準に基づき、乳幼児の健全な発育・発達の実態に沿った、栄養バランスの良い給食を提供している。

9月	<input checked="" type="checkbox"/>	栄養士が毎月子どもの様子を把握しながら作成している
2月	<input type="checkbox"/>	〃

乳児は、家庭との連絡を基に子どもの状況に合わせてゆったりとした雰囲気の中での授乳・食事を工夫している。

9月	<input checked="" type="checkbox"/>	ゆったりとした空間の中授乳ができるようにしている。
2月	<input type="checkbox"/>	〃

無理やり食べさせることや身体を拘束することなく、子どもの気持ちに寄り添いながら食事の介助をしている。

9月	<input checked="" type="checkbox"/>	楽しく食べることを大事にしている。
2月	<input type="checkbox"/>	〃

子どもたちが友だちや保育者と食事中に会話を楽しみ、友だちと一緒に食べる喜びを感じながら食事している。

9月	<input checked="" type="checkbox"/>	楽しく食べることを大事にしており、できている。
2月	<input type="checkbox"/>	〃

個人差やその日の体調など個々の子どもの状態に合わせて量を加減できる、年齢（咀嚼力等）に応じた柔らかさや味付けなど細かい配慮を行っている。

9月	<input checked="" type="checkbox"/>	体調・咀嚼力など個々の状況に対応している。量は子どもに聞き調整する。（可能な子）
2月	<input type="checkbox"/>	〃

温かいものは温かいうちに、冷たいものは冷たいうちに食事ができるなど、献立の趣旨にかなった適切な温度で子どもの食事のタイミングに合わせて給食が提供されている。

9月	<input checked="" type="checkbox"/>	配慮しできている。
2月	<input type="checkbox"/>	〃

子どもの視点に立った食育計画に基づき、栽培、収穫し、子ども自身で調理して食べる等の食育活動や簡単なクッキングすることで食に興味を持てる機会を工夫している。

9月	<input checked="" type="checkbox"/>	食育計画の実施、状況により変更をしながら行っている。
2月	<input type="checkbox"/>	〃

地域の人や食に関する業者（卸業者・農家等）の人と連携して食育を進めている。

9月	<input type="checkbox"/>	どのようにできるか考えていく
2月	<input type="checkbox"/>	〃 課題

アレルギー対応については、医師の診断書に基づき、保護者との定期的な話し合いを行いアレルギー食品の確認、献立の確認、誤食した場合の対応方法等を確認している。

9月	<input checked="" type="checkbox"/>	マニュアルに基づき適切に対応をしている。
2月	<input type="checkbox"/>	〃

### (3) 健康・安全

園では、保健計画に基づき看護師を中心にした保育看護の専門性を生かし心身に健康に、成長発達を保障できるよう、日々の健康観察や衛生管理を行っています。

乳幼児は抵抗力が弱く様々な病気にかかりやすい時期です。

このため、毎日の子どもの健康観察を行い、快適に過ごせるよう清潔を保ち、安定した生活リズムをつくり、手洗い・うがいなど基本的な清潔の習慣を身に付けるよう援助しています。

一人ひとりの成長・発達を考慮しながら、日常的な遊びの中で体力をつけ、遊んだ後は手洗いや着替えをして清潔を保ち、疲れた時は適切な環境の中でゆっくりと休みを取る。など、生活リズムや習慣を身に付けます。

健康診断の結果を保護者に知らせることや予防接種の情報等を知らせるなど、保護者と共に子ども健康管理を行います。園は集団生活であることを念頭に、感染症の早期発見と早期対応に努め、子どもの健康を管理しています。

園においては、生活の中で、清潔であることの心地よさを感じ、元気に過ごすことができるよう、衛生管理・健康管理・健康教育に努めます。

また、保育者は、常に危機管理意識を持って日々の保育活動を点検し、子どもの健やかな育ちを支援する安全な環境を整備していく責務がある。

子どもは、遊びを通して身体的・精神的・社会的に成長していきます。成長過程では、子どもを取り巻く環境に対して様々な働きかけを行い、学習していきます。しかしながら、子どもの行動は、判断力や安全に対する認識が未熟であり、様々なリスクを含んでいます。

保育者は、子ども一人ひとりを十分に理解し、健全に発達していくために必要な環境を整備し、いつ、どこでも事故が生じる可能性があることを念頭に置いて、保育者全員で自己予防に取り組まなければならない。

園では、リスクマネジメントを徹底し、ヒヤリハットなどの事例を保育者全員で検証し、リスクの原因を探り、再発防止に向けて全保育者で取り組むことのできる組織になっている。



看護師を中心とした保健計画を作成し、子どもの健やかな成長を支えるとともに、子どもが自ら安全や健康について学ぶ機会を持てるよう工夫をしている	
9月	<input checked="" type="checkbox"/> 看護師が保育の中子ども達に話をする機会を設けている。
2月	<input type="checkbox"/> //
保健（衛生管理、感染症対策）・事故・災害に関するマニュアルがあり、保育者全員に周知徹底されている。	
9月	<input checked="" type="checkbox"/> 随時マニュアルの確認。状況により朝礼・会議等で確認。研修も行う。
2月	<input type="checkbox"/> //
調理・調乳担当者の月1回以上の検便、職員採用前及び定期健康診断を実施し、結果を適切に管理している。	
9月	<input checked="" type="checkbox"/> 計画的に実施し、確認をしている。
2月	<input type="checkbox"/> //
子どもの入園の際に、既往歴及び予防接種等の把握を行い、入園前健康診断又は、それに代わる対応をしている。	
9月	<input checked="" type="checkbox"/> 個別面談を行い、職員に周知。入園後1ヶ月以内に健康診断を行う。
2月	<input type="checkbox"/> //
子どもに対し定期的（年2回以上）な健康診断及び歯科検診。乳児に対しては乳児健診（月1回）が行われ、結果を保育者や保護者に伝達し保育に反映している。	
9月	<input checked="" type="checkbox"/> 発達・発育状況を確認し、実施する。
2月	<input type="checkbox"/> //
一日を通した生活リズムを把握し、個々の子どもに合わせて睡眠・食事・遊びがバランスよく整え、自己を十分に発揮し健康に過ごすことができるよう配慮し、温度・換気・採光等適切な環境の保持を心掛けている。	
9月	<input checked="" type="checkbox"/> 日々定期的に行う。室内環境は年2回、薬剤師による検査を実施。
2月	<input type="checkbox"/> //
排泄（おむつ交換）・着替え等の基本的な生活習慣は、一人ひとりの子どもの状況に合わせる工夫をしている。	
9月	<input checked="" type="checkbox"/> 個々の状況でその都度行う。
2月	<input type="checkbox"/> //
与薬は、医師が作成する与薬依頼書や調剤提供書等に基づき行われ、与薬の際は、マニュアルに従い複数の目で確認を行い、与薬が適正に行われたことを確認することができるようになっている。	
9月	<input checked="" type="checkbox"/> 全員に周知。事務所に掲示。適切に行っている。
2月	<input type="checkbox"/> //
感染症発見時には、施設内掲示やメールなどの配信等で保護者に伝達したり、園内の衛生管理を徹底するなど、保育者・保護者の協力や保育者の連携により拡大防止に努めている。	
9月	<input checked="" type="checkbox"/> 日々の発信・注意喚起をしている。
2月	<input type="checkbox"/> //
施設内外の遊具の安全点検や保育環境のチェック定期的に行うとともに清掃が行き届いており、保育室・トイレ等の清潔が保たれ、おもちゃ等の子どもが使用する備品類の消毒が行われている。	
9月	<input checked="" type="checkbox"/> 点検・消毒・掃除等日々定期的に行う。状況により頻度を増やす。
2月	<input type="checkbox"/> //
小さなケガであっても、状況把握を行い、保護者に報告されている。	
9月	<input checked="" type="checkbox"/> 手当報告書と口頭にて伝える。
2月	<input type="checkbox"/> //
午睡の際は、午睡チェックを行い、うつ伏せで寝ている時は体位を変える等、SIDS防止の取組みを行っている。	
9月	<input checked="" type="checkbox"/> ルクミー使用、5分毎のチェック等 体位により上向きにする。
2月	<input type="checkbox"/> //
子どもの体調・表情・ケガ・食欲・清潔面・情緒面等を観察し、虐待の事実または疑いがある場合は、組織として速やかな対応ができるよう体制が整っている。	
9月	<input checked="" type="checkbox"/> マニュアルのシステムがある。気になる子は園長に報告をしてもらう。
2月	<input type="checkbox"/> //
個人情報の管理について、保育者全員で共通認識され、適切な管理が行われている。	
9月	<input checked="" type="checkbox"/> 園の所定の場所にて管理（鍵あり）
2月	<input type="checkbox"/> //

## 5 保護者支援・地域の子育て支援

こども園における保護者支援・子育て家庭支援は、「子どもの最善の利益を顧慮し、子どもの福祉を重視すること」です。子どもが今を幸せに生き、未来を作り出す力の基礎を養うことができるよう、こども園の専門職である保育教諭・栄養士・看護師等の保育者が協力して、保護者や子育て家庭の支援を行います。

子どもの数だけ育ちにも個性があり、子育ては一様にはいかないものです。子どもの成長を共に喜び、悩みがあれば一緒に考えること、子どもの情報を細やかに伝えること、保護者の置かれている状況やその思いを受け止めること、教育・保育の意図を伝え保育実践の見本を見せることなど様々な方法で保護者と子どもの安定した関係や、保護者の子育てへの自信や意欲を高めることに努めます。

そして、地域の子育て支援の拠点として、体験保育や子育て相談、子育て広場などの保育施設に在籍していない子育て家庭にも保育施設や子育て機能を開放し、保護者同士の交流の場を設定したり、子育ての相談を受け付けたり、必要な子育て情報を提供していきます。

私たちの園は、子どものために保護者や地域の子育てを支援することを基本とし、園と保護者や地域が連携し、お互いの気持ちを認め合い、共に協力して、地域全体で子どもを育てる環境の向上に努めることを大切にします。

保護者懇談会や園だより、クラスだより、保健だより、給食だよりなどを活用し、教育保育要領や日々の保育の意図、子どもの園での生活の様子、また職員の状況など家庭に紹介している。		
9月	<input checked="" type="checkbox"/>	日々の日誌公開をはじめ、巻頭言やクラス便りに記載、いつでも保護者が見られるようにしている。
2月	<input type="checkbox"/>	〃
保護者の話に傾聴し誠実に答える姿勢を持ち、保護者と職員相互で子どもの保育に関わる園の課題を共有し、保育実践や園運営に生かす工夫がある。		
9月	<input checked="" type="checkbox"/>	行事の意図やそれまでの取り組み等を随時伝えている。保護者の話を傾聴し、その都度対応している
2月	<input type="checkbox"/>	〃
苦情解決、第三者評価、利用者アンケートに取り組み、その結果を踏まえた教育・保育の改善を保護者に伝えている。また、園の情報として公表している。		
9月	<input checked="" type="checkbox"/>	掲示やHpへの記載
2月	<input type="checkbox"/>	〃
地域における子育て支援の拠点となるために、地域の家庭を対象にした育児講座の開催、子育てに関する講習会への職員の派遣などの子育て支援事業に取り組んでいる。		
9月	<input checked="" type="checkbox"/>	園内でできる取り組みを工夫して行う。Hpを利用しての動画配信等を行う。
2月	<input type="checkbox"/>	〃
園の活動や行事に地域の人に参加してもらうなど、子どもが職員以外の人と交流できる機会がある。		
9月	<input type="checkbox"/>	感染防止のため、交流はできなかった。できる手段を考えていく。
2月	<input checked="" type="checkbox"/>	資源講座・防犯訓練・海のごみ拾いなど、できることを探り、感染対策をしながら行う。
小学校と連携を図って、子どもの成長の連続性を保ち、小学生との交流や小学校教諭と学び合う機会をもっている。		
9月	<input type="checkbox"/>	小学校とは連絡は取りあうが感染拡大防止のため、難しかった
2月	<input checked="" type="checkbox"/>	引き続き連絡を取り合う。学校の様子のポスターを掲示して見られるようにする。
保育者は市や地域で行われているひとり親家庭支援、障がい児支援、養育困難家庭の支援、その他の専門的支援施策について理解し、必要とする家庭を支援につなぐ役割を果たせるように学んでいる。		
9月	<input checked="" type="checkbox"/>	支援センター等と連携を取り園の見学の際アドバイスをもらう。個別対応をしている。
2月	<input type="checkbox"/>	〃

## 6 保育の質の向上に向けた取り組み

社会の変化によりこども園のニーズや役割が多様化し、多機能化が求められるようになり、保育も質の高さを求められるようになり、常により質の高い保育を目指した取り組みが求められています。

保育者は、保育の質を担保する中核を担うため、保育教諭・看護師・栄養士をはじめとする保育者一人ひとりの保育の専門性が保育の質に直結します。そのため、保育者は職務に携わりながら保育現場で求められる知識や技能をより深め、さらに専門性を高めていくことが不可欠です。

同時に、子どもの人権を尊重し、その最善の利益を考慮して保育を行うためには、保育者の人間観、子ども観などの相対的なものとして現れる人間性やこども園の保育者として自らの職務を適切に遂行していくことに対する責任の自覚といった保育者としての資質が求められる。

また、保育者の言動が子どもや保護者、地域の人に大きな影響を与える存在であるから、高い倫理観が求められるが、その保育者としての資質という裏付けがあってこそ子ども・保護者や地域の人に十分な信頼と意味のある援助が生まれる。

保育者は自己研鑽や園内での研修に参加することやキャリアアップを目的とする体系化された外部研修を受けながら自身の職位や職務にあった能力を身に付けるための研修を受ける必要がある。保育者はそれぞれに必要な技術や知識を習得し、より高度な専門性を得て専門職としてのキャリア形成をすることが園全体の保育の質の向上につながる。

また、園内での研修は、保育者が自分のたちの園の良さや強みを意識してさらに保育の質の向上につながる課題を考えることができる機会とする必要がある。

施設長は、自己評価・第三者評価・保護者アンケートや地域の意見を通して、常に運営の課題を自覚し、園全体の保育の質の向上に努めることが求められる。そして、理念や目標に基づき子どもの最善の利益を根幹とした保育の質の向上を図り、社会的使命と責任を果たさなければならない。

同時に、チームで行う保育の基礎となる職員一人ひとりの専門性の向上の機会を作り確保することが求められる。

園全体で倫理観を高めるため「全国保育士倫理綱領」を読み合わせる機会がある。		
9月	<input checked="" type="checkbox"/>	職員全体で読み合わせ、確認をした。
2月	<input type="checkbox"/>	〃
保育士・保育教諭・栄養士・看護師・事務員・用務員等、それぞれの専門性を生かし協働することができている。		
9月	<input checked="" type="checkbox"/>	子どものことを中心に、保育者全体で連携を取りながら話し、計画をたてている。
2月	<input type="checkbox"/>	〃
日々の保育を振り返り、チームや園全体と共有する時間を工夫して作り出している。		
9月	<input checked="" type="checkbox"/>	日々クラスごとで時間を作り、話をしている。また週案会議の中全体での振り返り等行う。
2月	<input type="checkbox"/>	〃
知識、技能、判断力、対応力及び人間性を深めるための研修を職位や職務に応じて受けている。		
9月	<input checked="" type="checkbox"/>	年間で計画を立て、職位・職務に応じた研修を受ける機会を設けている。
2月	<input type="checkbox"/>	〃
園全体で、保育の質について定期的かつ継続的に検討を行い改善に取り組む体制がある。		
9月	<input checked="" type="checkbox"/>	研修（職員会議等）で保育の話をし、また気がついたことは、随時行い改善等している。
2月	<input type="checkbox"/>	〃
保育者の職務と経験に応じたキャリア形成のための研修体系ができている。		
9月	<input checked="" type="checkbox"/>	個々の研修計画をたて、年度初めに意図と共に伝え、研修に行ける体制を作っている。
2月	<input type="checkbox"/>	〃
保育者間において、日常的に若手保育者が育つような指導や助言をして支え合う関係性がある。		
9月	<input checked="" type="checkbox"/>	年の近い職員が相談役をしたり、話しやすい雰囲気を作りアドバイスができるようにしている。
2月	<input type="checkbox"/>	〃
保育者が自らの専門性を高めるために学ぶという意識ができるような主題の園内研修になっている。		
9月	<input checked="" type="checkbox"/>	ドキュメンテーション記録の共有をし、全体で話している。
2月	<input type="checkbox"/>	〃
園内研修は、動画を使うなど具体的な子ども姿や保育者との関わり、環境の在り方などが検討され参加者全員が共有し、参加しなかった保育者への共有が工夫されている。		
9月	<input checked="" type="checkbox"/>	動画や写真を有効に使い、研修を行う。2日に分け研修を行い全員が参加する体制を作っている。また内容は掲示している。
2月	<input type="checkbox"/>	〃
施設長は、基本的な関連法令（保育・福祉・雇用・労働・防災・環境等）を保育者に周知するように努力している。		
9月	<input checked="" type="checkbox"/>	掲示や会議等で伝えている。
2月	<input type="checkbox"/>	〃
施設長は、自己評価・意見などを考慮し、園全体の保育の質が向上するように保育者と取り組んでいる。		
9月	<input checked="" type="checkbox"/>	面談や投げかけ、一緒に考えるなど取り組んでいる。
2月	<input type="checkbox"/>	〃
「保育者に求められる資質」を身に付けるため、通常業務内において研修やOJTなどの機会があり情報交換ができるよう計画的に時間を確保し、職員体制を整えている。		
9月	<input checked="" type="checkbox"/>	職員配置等を工夫しながら、業務時間内にできるよう計画している。
2月	<input type="checkbox"/>	〃

## 7 防犯及び災害対策

近年、温室効果ガスによる気候変動が深刻になり、ゲリラ豪雨や大型台風の増加による浸水、竜巻による突風被害、大地震の確率が高くなるなどこれまでに考えられない状況が発生するようになりました。

それぞれの災害の対策としてマニュアルの点検・改訂を随時行い、保育者・利用者の訓練も見直しながら進めていくとともに施設の改修、備蓄品や用品の整備点検を必ず実施することが求められます。

また、格差の拡大などが社会問題となっている中で、子どもなどの弱者に対する犯罪もこれまでには考えられない事件が起きているように思われます。そして、散歩など園外保育において遭遇する事故もこれまでとは違った内容になってきていると思います。

これまでも保育者は、保育中の事故や交通事故などから子どもの生命を守ることは当然とされてきていますが、犯罪などから自らの命も同時に守ることができるような対策を求められるようになってきました。安心・安全を最優先するための対策・訓練求められます。

火災や地震を想定した避難・消火・通報訓練が毎月定期的に行われ、消防署への報告ができています。		
9月	<input checked="" type="checkbox"/>	年間計画をたて、実施。振り返りを行う。
2月	<input type="checkbox"/>	〃
ゲリラ豪雨による浸水・台風や竜巻による突風など突然の災害に対するマニュアルがあり訓練が行われている。		
9月	<input checked="" type="checkbox"/>	訓練の計画をたて実施。マニュアルに記載
2月	<input type="checkbox"/>	〃
保育時間内外の災害に対する体制が整えられ保護者や地域の人に周知されている。		
9月	<input checked="" type="checkbox"/>	保護者に災害時のマニュアルを配付。訓練に参加してもらう
2月	<input type="checkbox"/>	〃
お散歩マップが作成され、塀の倒壊や交通事故に巻き込まれないような視点の内容になっている。		
9月	<input checked="" type="checkbox"/>	近隣の危険個所・注意点を記載したお散歩マップを見られる場所に掲示
2月	<input type="checkbox"/>	〃
災害時に必要な備品・備蓄が整備され、随時点検・更新されている。また、備蓄品は3日間分用意されている。		
9月	<input checked="" type="checkbox"/>	備蓄内容・賞味期限など記載し、随時確認。訓練等で利用もしている。
2月	<input type="checkbox"/>	〃
子どもたちが不審者の侵入などによる犯罪に巻き込まれないよう、セキュリティ対策は整っている。		
9月	<input checked="" type="checkbox"/>	セコムにて管理・
2月	<input type="checkbox"/>	
不審者の侵入などによる犯罪に対する訓練が保育者向けと子ども向けに行われている。		
9月	<input checked="" type="checkbox"/>	市の指導員による防犯訓練を実施。園内・散歩先の防犯訓練。
2月	<input type="checkbox"/>	〃

## 8 運営

子どもの人権を守ると同時に保育者の人権も守られなければなりません。労働時間や賃金などの労働条件を整備すること。休憩の確保や保育者の健康を守ること。このようなことは保育者の意欲、自己啓発を支えることにもつながり保育の質の向上に必要なことです。

働きやすさは、条件整備だけではなく、保育者の経験年数や年齢に応じてバランスよく必要な人数が配置されていることや身体を休めることができる休憩の取り方、有給休暇が公平に取れるといった環境を整えることも重要な観点になります。しかし、環境の整備は、園から与えられるものではなく全保育者で取り組む課題でもあると言えます。保育者相互が理解し合うことでチームとなり、お互いの働くことと生活を支え合うことができる人間関係が必須であろうと考えます。

安心して子どもに接することができるよう、社会保障や雇用条件等、労働条件や環境が整備されていることは重要です。

また、保育の理念や目標といった運営や保育の基本となることを理解し、保育計画を作成し保育者に周知すること。保護者や地域の人に運営や保育内容の意図することを解りやすく発信することも求められています。

理事長・園長は園運営事業者として、熱意と積極性を持っており、保育に対する理念や方針が明確である。

9月  理事長は熱意を持ち指導、相談に対応してくれる。園長は研修や会議で理念を伝えている。

2月  //

園を運営していくにあたっての現場での意見が、経営者層の判断材料となる組織である。

9月  今年はリモートでしたが経営会議・園長会議等、毎月行い現状を幹部全体で把握している。

2月  //

保育者の雇用条件、就業規則などが明確である。

9月  就業時に配布。変更の際説明をしている。令和2年6月30日改定

2月  //

保育者が安定して働き続けることができる労働条件（給与水準・休暇制度・休憩時間）などが整備されている。

9月  東社協給与基準を参考に給与表を作成している。労働条件は労務士と管理をしている。

2月  //

保育者の自己啓発やリフレッシュのための労働環境（人員配置・時間の保障など）が整備されている。

9月  個人研修計画を保育者とともに作成している。年間有給休暇計画を年度初めに作成している

2月  //

保育者のライフプランに関する視点を持ち、具体的な取り組みが実践されている。

9月  個人目標シートを作成し年2回の個人面談を行い、状況把握やアドバイスをを行う。

2月  //

職場の環境を整えるための話し合いが行われ、そこでまとめられた意見から改善される体制がある。

9月  環境係が計画を立て、クラス会議や週案会議等でも話し合い、実施をもとに改善等をしている。

2月  //

園の理念や保育の目標などの情報を保護者や地域の人に発信している。

9月  月初めのお便りなどに記載し、ホームページにて公開

2月  //

チーム保育を行う上で必要な人間関係を潤滑にし、保持する取り組みが行われ継続できている。

9月  正職・パートに関係なく学び合う研修や一円対話などを行い同僚性の構築に努めている

2月  //



### Ⅲ 保育の質の向上のために行う取り組みの視点

園が子どもを中心とした理念を実現するために次の視点を踏まえ園職員・保護者・地域と共に保育の質の向上に取り組んでいきます。

法人	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 保育理念・保育方針を明示する。</li><li>・ 法人内施設間の専門性を強める仕組みを作る。</li><li>・ 子どもを中心とした保育の質の向上への取り組みを行う。</li></ul>
園長 主任保育士	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 子どもの視点での保育環境の整備を行う。</li><li>・ 職員の労働条件・労働環境・賃金などの安定を図る。</li><li>・ 保育者としての専門性を高める意欲を支援する。</li><li>・ 保護者が必要とする運営や保育に関する情報を公開する。</li><li>・ 法人内施設間で連携できる環境を整備する。</li><li>・ 恒久的な施設運営のため安定した経営を行う。</li><li>・ 地域に根ざした施設運営を行い、地域と園の適切な関係を保つ。</li></ul>
保育者	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 子どもを中心とした保育に意欲的に取り組む。</li><li>・ 一人ひとりの子どもの気持ちや発達を理解し、寄り添う保育を行う。</li><li>・ 専門性を高め、経験を豊かにし、保育の質を高める。</li><li>・ 子どもの育つ姿や保育の意図を伝え、保護者を支援する。</li><li>・ 地域に根ざした保育運営を行う。</li><li>・ 保育の意図や子供の育つ姿を伝え、在宅子育てを支援する。</li></ul>
保護者 地域	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 子どものための保育や保育の専門性を理解することができるようにする。</li><li>・ 保護者同士が繋がり、子育てに関する情報が共有できるようにする。</li><li>・ 必要な情報を収集し適正に利用する。</li><li>・ 園の保育に協力し、参画・参加できるようにする。</li><li>・ 子どもの安全を見守ることができるようにする。</li><li>・ 保育施設職員と子どもの育ちを共有し、子育てに見通しや希望が持てるようにする。</li></ul>

